

2010.10.08 / 決算委員会

(かのう) まず、何課なのかわからないのですが、産休教員、高校、小中もわかればいいのですが、妊娠される先生がおります。今までずっとPTA活動を通じて言われるのが、卒業年度、小6、中3、高3とか、そういった担任をしている先生が妊娠される。いわゆる重要な就職、進学の時期に産休、育休に入ってしまう。これに対する対応がない。妊娠することはいいことなのですが、別に計画妊娠しろとは言いませんが、ある程度、自分が受け持ちしている生徒の重要な時期に産休、育休に入ることがあらかじめわかっているなら、もっと早く担任を、補助担任なり、引き継ぎをきちんとやってほしいということをよく言われるのです。確かに、そういう方は多いです。別に、妊娠することがいけないとかそういうことではなくて、それはめでたいことなのだけれども、大事な時期に、これから産休です、代わりの先生が来ましたとあって、子どもたちがその先生についていけるのかという部分が非常に問題になっていますが、その辺はどのように対策しているのか、教えていただけますか。

(義務教育課長) 産休につきましては、通常、学校の中で、3月までに妊娠が判明しているとか、そういう場合には6年生とか中学3年生の担任は別の者にかわったりとかはしております。ただ、年度中途の場合には、予想できないということもありますので、その間で重要な部分については、代替教員の確保を図りながら、特に、産休、育休の場合には引き継ぎ日というのを1日設けております。そして、引き継ぎが行われるようにしております。

(かのう) そういうことはきちんとやられていると思います。大事なことは、要するにだれでもいいというわけではないのです。子どもたちにとって、親身になって今までやっていた先生が子どもが生まれる、それはうれしいことだけれども、それに対して、その後のフォローをきちんとする引き継ぎができない。これは、予算上の問題で、もっと早くから押さえておくのは難しいのかもしれませんが、そういった部分を来年度以降、予算に組んでいただいて、産休、代休だけでなく、ほかも含めて、早めに子どもたちときちんと対応できる、中学生、高校生もそうなのですが、きちんと引き継ぎをして、きちんと担任にかわる指導ができるような先生の確保を予算に組んでいただきたい。決算に見えなかった。これは終わります。

次に、245ページくらいから出ているのですが、英語教員。私、第1回の質問のときにも言ったのですが、英語の教育は非常に難しいと思いますが、ここにいろいろ出ています。245ページの目的のところにも、英語コミュニケーション能力の向上、国際理解教育の推進とか書いてあって、最後に国際社会に貢献できる資質や能力の育成と書いてあって、その下の事業も、英語コミュニケーション能力育成事業、フォーラム、その下が外国語指導助手招致事業ということ

で、内容が、英語に触れさせるとともに異文化理解を深める。

247 ページの事業の成果のところを見ると、かくかくしかじかで、2行目、「英語の楽しさやコミュニケーション能力の意義を理解させることができた」。わかりますか。何が言いたいかという、英語に力を入れましょうと言っているのだけれども、事業の内容を見ても、英会話ができるようにするという内容になっていないし、事業も、ちょっと違うのではないかということなのです。これが、英語会話能力を高めることに茨城県は力を入れているのか、それとも、海外のいろいろな話を聞いたり、外国の人から話を聞くということで、やはりこれから国際化が大事なのだという意義を理解させることなのか、そこがわからない。要するに、英語が使えるようにすることが目的とするのか、英語はやっぱり大事だだという意義を理解させているのか、その辺がわからないのですが、どうでしょうか。

(高校教育課長) 高校では、ALTを30名ほど招致して英語教育をやっているわけですが、一番は、英語が話せるようになるような部分が大きいと思います。したがって、英語の教員だけということではなかなか、ネイティブスピーカーの英語を直に聞いて、それによって、会話等に生徒がある程度抵抗を少なくして外国人と付き合っていけるような、そういう形で、現在、英語授業は進めているわけなのですが、授業のやり方的には、まだまだ、英語の教員が主になって、ALTが補助するような形が多いような気が私にはします。授業等も見ても、全部がというわけではないですが、ある時間はネイティブスピーカーのALTが主になって、会話等を含めて実施すべきではないかというようなことは思っております。

(かのう) 異国の言葉を覚えるというのは非常に難しいので、一番いいのは外国へ行くことなのですが、今の課長のお話を聞いて思ったのですが、現実、小学校、中学校の英語の授業を見ても、昔と変わりません。私がやったころと内容的には変わりません。あれでは、英語が好きになるかどうかというのはまた別の話です。ですから、これは質問ではないのですが、参考までです。英語が好きになるということ、語学が好きになるというのは、文化が入ることが非常に大事だと思うので、これは、視点はいいのです。やり方だと思うので、もっと検討していただきたいと思うのです。皆さん方は余り漫画は読まれないと思いますが、東大に入るという「ドラゴン桜」という漫画があるのです。あれなどでも、実際、東大生の入学のために英語の歌を歌ったり踊ったり、体全体で覚えて、リズムが楽しい。映画を観たり、音楽を聴いたり、そういう形で触れ合って、英語のこの意味は何だろうか、そういった、みずから前へ一歩出るような形の内容に変えていく。ですから、これも事業名がおかしくて、外国語指導助手招致事業と書いてあるけれども、事業名を変えて、おもしろく教えてく

れる人をどんどん引っ張って、カリキュラムを検討して、評価して、ここに出していただきたい。どれだけの子どもたちが外国語に興味を持って、外国語に進んだ、そこまで引っ張れるようなカリキュラムにしていただければと思っております。

次に移ります。250 ページになるかと思うのですが、性教育について質問をします。

私も先般、うちの小学校の5年生の授業参観で、保健か何かで、性教育の授業をやっている様子を見て、鋭いことを聞く。うちの子どもも、よくそんなことに答えられな、成長したなと思って聞いていたのですが、それは余談ですが、この思いやる心を育む性教育推進事業ということで、講演の開催とか、啓発資料の作成ということになっていて、高等学校1年生に配付となっていますが、これは、こういった内容なのか、大体で結構ですから、教えていただけますか。

(保健体育課長) この思いやる心を育む性教育推進事業でございますが、ここに記載しておりますのは県立高校だけの部分でございます。まず、小中学校につきましても、各市町村の教育委員会の方にできるだけその辺の講演について実施をお願いできないかということで依頼等をしているところでございます。

この内容につきましては、一般的な性教育の内容に関する部分が多いのですが、内容のクリアファイル等につきましては、いろいろ、今問題になっております子宮頸がんでございますとか、さまざまなことに触れられるようにしてはございますが、ただ、学習指導要領で学習の内容が決められている部分がございますので、それから逸脱をしないような内容にはしておるところでございます。

(かのう) 性教育の中身について、いろいろ問題があるので、これをやった方がいい、やらない方がいい、いろいろあるのですが、今、子宮頸がんの話がされたので、非常によかったと思うのですが、実は、子宮頸がんワクチンを、今、全国的にブームでございます。特に選挙前ですから、無料、無料などとやっていますが、子宮頸がん、なぜ無料なのですか。今、11歳から14歳です。ここから先は言わなくてもおわかりのとおり、要するに、性交渉の低年齢化に伴って早めにやりましょうという動きです。これは、部門は違うのかもしれませんが、きちんと教育を、教育長は熱い方でございますから、ぜひとも、教育の中できちんとそういった面を話していただいて、性教育さえきちんとやっていたら、本来なら、子宮頸がんワクチンを低年齢にする必要もなくなるはずなんです。そこまできちんとやっていたらいいような形、避妊の仕方どうのこうのではなくて、きちんとそっちの方の教育に力を入れていきたいという思いでありますので、ぜひやっていただきたい。

(保健体育課長) この性教育に関しましては、今年度のやっている状況でござ

いますが、今、委員がおっしゃるように、早い段階からの教育が必要だろうということで、教育委員会としまして、教育重点戦略ということで、この性教育を取り上げております。その中で、いろいろ、実践事例集というものをつくりまして、小中高ともに今、作成をしております、その中で、早い段階から性に関することについては指導ができるようなシステムをつくっているところでございます。

(かのう) 何でもそうなのですが、学校で子どもたちがきちんと勉強してくれば、家に帰って親にきちんとと言えますから、そうじゃないよ、お母さん、私たちがきちんと操を守れば18歳までやらなくていいんだと、そういった話がきちんとできるということだと思いますので、よろしくをお願いします。

最後に、249ページ。これは、いつも教育長にお願いしているところにかかわるのですが、児童生徒の体力アップということで、体育系の学生を助手という形で使っているのですが、残念ながら、非常に予算が少ないのです。予算が少ない割に、今計算したら、指導回数と人数換算で、1人当たり2万4,000円ぐらいみたいな感じがしますが、これは、どれくらいお金を払っているのか。人件費だと思うのですが、どんな感じになっているのか、教えていただけますか。

(保健体育課長) 費用につきましては、委員おっしゃるとおりぐらいの額でございます。1回につきまして約3,000円程度の謝金ということでお支払いしています。ただ、大学院生を特に派遣できるようにお願いをしているところでございますが、授業をやっている合間に学校に行っていただいてやるということが多いものですから、車の運転ができるとか、行って戻ってくる時間等を考慮したりしますと、今のところ、拡大はしたいのですが、平成21年度については、この人数が、応募者もこの人数でございましたので、こういう状況でございます。

(かのう) 残念ながら、来年度、予算が減ってしまう。124万8,000円となっています。ぜひ、もっとふやしていただきたいと思うのと同時に、その上で、運動部活動の推進等と書いてあるのですが、先ほど、報告の中で、事業の活性化に寄与したという報告があったので、事業の活性化に終わらず、その下の部分も含めて、小学校、中学校、高校まで、運動が好きだ、運動することがいいのだというような形に引っ張れるように、もっと教育庁に予算を要望して、つけていただければ素晴らしいと思いますので、要望で終わります。